

科目番号	52025	分類	実践助産学	履修者	高度実践助産コース	学年					
科目名	助産実践力発展実習 (Practicum for Advanced Midwifery)						2				
							配当セスター				
							前期				
担当者	○橋本 美幸、平出 美栄子 関屋 伸子、小嶋 奈都子、 加藤 知子	区分	助産師免許取得プログラム	必修	単位	3	時間数	135			
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連					
1. 実習のねらい						○	1. 自律して自然分娩の支援ができる能力				
ハイリスクの妊産褥婦と胎児・新生児のもつ疾患・リスクおよびその治療・管理について理解する。また、身体面からだけではなく心理的・社会的側面から統合的に対象を理解し、助産計画の立案、ケアの実践ができる力を養う。							2. 院内・院外助産システムを担うことができる能力				
ハイリスク児を尊重したケアについて理解する。ハイリスク児を持つ親とその家族を取り巻く社会環境や支援など様々な問題について学び、医療施設内外、地域関連施設の多職種との協働や連携のあり方、包括的なケアについて探究できる力を養う。							3. 女性の生涯にわたる健康を支援できる能力				
ハイリスク母児へのケアや支援を通して助産師の倫理的態度について考察を深める。							4. 周産期の救急時に対応できる能力				
2. 実習目標							5. 他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力				
1) ハイリスク妊産褥婦の病態、治療方針、管理について理解し、助産過程の展開と対象の状態に応じた助産ケアを、指導者の指導のもと実践できる。							6. 研究・開発能力				
2) ハイリスクの妊産褥婦の心理的、社会的影響をアセスメントし、包括的なケアについて考えることができる。							7. 倫理的意思決定能力				
3) ディベロップメンタルケアなど新生児を尊重したケアについて理解できる。											
4) ハイリスク児出生までの経過、児の病態、治療方針について理解し、アセスメントと児の状態に応じたケアについて述べられる。											
5) ハイリスク児が家族に与える影響をアセスメントし、家族を含めた包括的なケアについて考察できる。											
6) ハイリスク妊産褥婦やハイリスク児の退院に向けた支援など医療施設内や地域関連施設との連携の在り方について学び、考察できる。											
7) ハイリスク母児とその家族へのケアの際の助産師の役割と倫理的態度について考察できる。											
3. 実習場所と時期											
2017年6～7月 3週間											
1) 国立病院機構 東京医療センター 産婦人科病棟と産婦人科外来：平成29年6月5日～6月30日											
2) 国立成育医療研究センター NICU/GCU：平成29年5月31日～6月16日											
3) 国立病院機構 神奈川病院 重症心身障害者病棟：平成29年7月5・6日											
4. 実習方法											
1) 国立病院機構 東京医療センター											
・ハイリスク妊産褥婦を受け持ち、助産過程の展開、ケアを考え、臨床指導者と共に実践する。											
・外来でのハイリスク妊婦への治療・管理および助産師の役割について学び、助産過程の展開を行い、必要な保健指導計画案を立案する(2例)。											
2) 国立成育医療研究センター											
・NICU/GCUにおける見学を主とした実習											
3) 国立病院機構 神奈川病院											
・重症心身障害児(者)病棟、療育指導室の見学実習											
4) 見学実習事前カンファレンス											
事前・事後学習	事前・事後学習：実習目標から具体的な自己の課題を決め、課題に関連する文献を収集し、「自己学習を行うこと。 単位と時間数に応じた学習時間(学生便覧参照)を参考に組み合わせること。										
評価の方法	実習目標の達成度による評価を行う(実習記録 30%、カンファレンスとレポート 40%、実習態度 30%) フィードバックは適宜行う。										
参考図書 ・資料等											
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 履修要件：助産学基礎実習、助産実践力開発実習、地域助産学実習の単位習得していること										